

特集

「安全・安心な水道」、 「次世代につなぐ水道」を築くために

岡谷市の水道は、大正末期より整備されはじめ、合併や人口増加、市街地の拡大に合わせ、統合、拡張などを経て、現在に至っています。

その間、都市の生活衛生と工業化を支え、市民生活にも企業活動にも欠くことのできない社会資本として、受け継がれてきました。事業開始から1世紀近くがたち、当時の設備も一部残るなか、施設の維持管理、事業の効率化・合理化、さらには今後の社会の変化に合わせた備えなど、さまざまな課題も抱えています。

このような課題の解決に向けて、市は「岡谷市水道事業基本計画」を策定し、計画に基づいた施設整備を行うために、7月1日から水道料金を改定します。

わたしたちが毎日、何気なく使っている水道は、先人が築き、時代とともに受け継がれてきた貴重な財産です。将来に向けて継続、発展させていくために何が必要で、何をすべきか、歴史を振り返りながら、一緒に考えてみましょう。

おかやの水道の歴史

大正期に入り、製糸業がますます発展するとともに人口も増加し、飲料水や工業用水の需要が増えてきたことから、水道敷設の要望が高まってきました。

大正

岡谷市内に水道が敷設され始めたのは大正末期からです。それまでは、家庭で使われる飲料水や生活用水は、井戸水や汐水、清水などの湧水がほとんどでした。

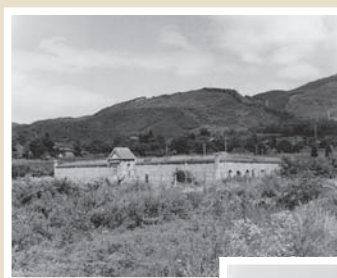


滝ノ沢水源地 (昭和2年建設)
近代化産業遺産

昭和初期には、西堀や小口、間下地区が平野村湊村上水道組合から、岡谷地区が新屋敷、上浜地区とともに水道施設の築造を行い、それぞれ給水を始めました。

昭和

大正末期には、小井川地区が現在の小井川浄水場の場所に配水池などを築造し、小尾口、下浜地区は湊村の花岡地区と共同で、川岸水道は、三沢区を主として橋原、新倉および岡谷の工場地帯の一部を給水区域として、それぞれ給水を始めました。



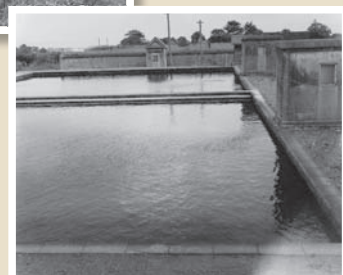
小井川水源地
配水池
(大正14年建設)



岡谷配水池 (昭和3年建設)

今井区では、飲料水として汐水や井戸水を利用していましたが、湯水期には水の確保が難しいことから、昭和26年に水道の敷設を市に要望し、市が水道敷設を実施することとなりました。こうして岡谷市営水道が昭和27年10月に発足しました。

小井川水源地
ろ過池



昭和23年の時点では、小井川水道(小井川全域)、平野村湊村水道組合(小尾口・下浜・西堀・小口・間下・湊花岡)、岡谷水道(岡谷・新屋敷・上浜全域)、川岸水道(三沢・橋原・新倉)が給水していましたが、水道の普及率は、当時の岡谷市全戸の40%にも及びませんでした。

昭和30年には、湊村合併に伴い小坂水道を、昭和32年には長地村合併に伴い長地水道を、昭和33年には小井川水道、岡谷水道、湊水道を、さらに昭和43年に川岸水道をそれぞれ岡谷市上水道に統合しました。その後、人口増加や市街地の拡大に合わせて、拡張事業などを行い、現在に至っています。

平成



小坂水源地

課題とその解決に向けて

自然災害に強い水道づくりへ…

「岡谷市水道事業基本計画」

50年先を見すえて、水道施設の再構築・更新・耐震化についてまとめました。

現在、全国の水道事業は、施設の老朽化への対応や、給水人口の減少、大地震への備えなど、多くの課題を抱えています。施設の更新や効率化、耐震化への取り組みは避けて通れない状況にあり、岡谷市の水道事業も例外ではありません。

市は、平成27年3月に、これから50年先でも、安全・安心で安定した水道事業を継続するために、施設を再構築することなど、次の世代に引き継ぐために取り組む事柄を整理した「岡谷市水道事業基本計画」を策定。続いて、基本計画を実施に移すための、具体的な財政運営計画と、数多くの水道施設の整備スケジュールや投資計画を検討した、実施計画を策定しました。



長年働き続けている岡谷の配水池

※25mプール=360㎡



川岸配水池

- 配水池容量…1,564㎡
(25mプール4.3杯分)
- 大正14年(1925年)建設
(建設後91年経過)
- 鉄筋がないコンクリート構造物



小井川配水池

- 配水池容量…1,278㎡
(25mプール3.6杯分)
- 大正14年(1925年)建設
(建設後91年経過)
- 鉄筋がないコンクリート構造物



花岡配水池

- 配水池容量…1,278㎡
(25mプール3.6杯分)
- 大正14年(1925年)建設
(建設後91年経過)
- 鉄筋がないコンクリート構造物



岡谷配水池

- 配水池容量…1,660㎡
(25mプール4.6杯分)
- 昭和3年(1928年)建設
(建設後88年経過)
- 鉄筋がないコンクリート構造物

老朽化が進んだ配水池などの施設を更新し、

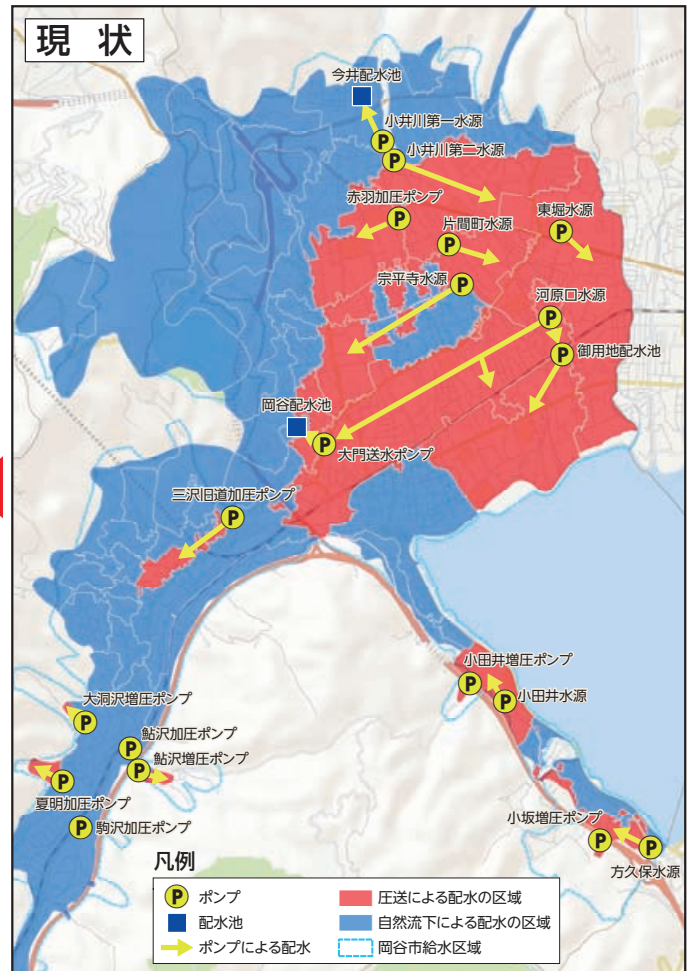
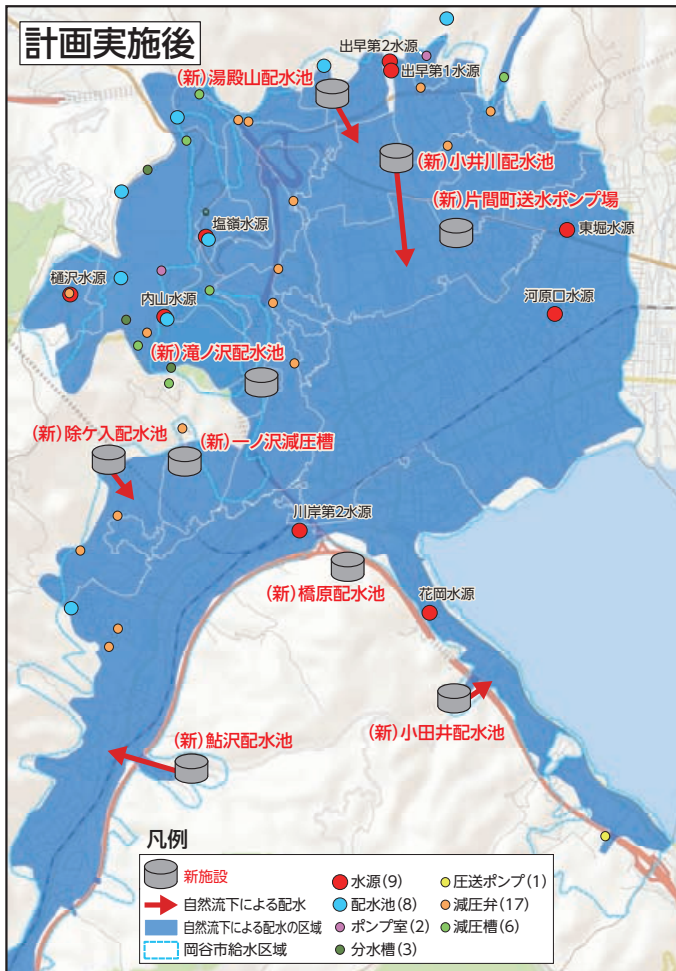
災害に強い配水体系にします

◎岡谷市の主要な配水池である小井川配水池、岡谷配水池、川岸配水池、花岡配水池は、大正末期から昭和初期にかけて整備されたもので、すでに90年余り使用していて、老朽化が進んでいます。これらの配水池を、(新)小井川配水池、(新)橋原配水池、(新)小田井配水池として更新することにより、耐震化を図り、地震などによる被害を軽減します。配水池容量が不足している箇所は、更新にあわせて配水池容量を確保します。

◎現在、旧市内を中心に岡谷市の3分の1の地域でポンプを使った配水をしています。が、災害などで停電が起きると、ポンプが止まり配水できなくなります。このため、地形の高低差を利用した自然流下方式で配水する方式に改め、停電などの緊急時でも、継続して配水できるようにします。

◎(新)小井川配水池へは、市内4つの水源から水を送ります。(新)片間町送水ポンプ場を築造し、片間町水源、東堀水源、河原口水源、宗平寺水源の水を(新)小井川配水池へ送ります。これらの井戸は整備の進捗にあわせ、順次耐震化工事を行う予定です。

◎電力や機械を使用して配水する施設を、自然流下方式とすることで、整備後のランニングコストの軽減を図ります。



◎施設や水源の不測の事故や、設備のメンテナンス時などでも、安定した水道水の供給ができるように、水源水量の増加や送水場の新設などによりバックアップ機能を強化します。

病院、避難所などへの重要管路について耐震化を進めます

人命の安全確保のため、災害対策本部や病院、避難拠点など、給水優先度が特に高い施設への基幹管路の耐震化を行います。また、主要な水源配水池などの耐震化も行います。

水道料金の改定

水道事業は、市民のみなさんからいただく水道料金によって運営されています。ところが、前回水道料金を改定した平成11年度と27年度の状況を比べると、給水人口は10%、6300人の減、水道料金収入は20%、2億円の減となっております。このような状況のなかで、基本計画に掲げた施設整備を着実に進めるためには、国

の補助金や借入金のほか、これまで蓄えてきた資金を使っても、なお不足する分を水道料金でまかなう必要があり、7月1日から水道料金を、平均で9・7%引き上げます。

市民のみなさんには、将来にわたり、人が住み続けるまちの基盤である「安全・安心な水道」、「次世代につながる水道」を築くために、この事業の必要性をご理解いただき、さらに料金改定についても、ご協力をお願いいたします。



問合せ ● 水道課 (内線 1411)